

平成 22 年度 研究実施計画書

| 研究種別 | 重点推進研究 | | 研究班 | 自閉症研究班 |
|-------|----------------------------------------------------------|--------------------|-----|-------------------|
| 研究課題名 | 特別支援学級における自閉症のある児童生徒の「カリキュラムアセスメント」(仮称)に基づいた教育課程編成の実証的研究 | | | |
| 研究期間 | 平成22年度～23年度 | | | |
| 研究組織 | 氏名 | 所属・職名 | | 役割 |
| 研究代表者 | 廣瀬由美子 | 教育支援部・総括研究員 | | 研究の統括、担当校情報収集 |
| 研究分担者 | 小澤 至賢 | 教育支援部・主任研究員 | | サブ:カリキュラム、担当校情報収集 |
| | 井上 昌士 | 教育支援部・総括研究員 | | 担当校情報収集、 |
| | 笹森 洋樹 | 発達障害教育情報センター・総括研究員 | | 担当校情報収集 |
| | 菊地 一文 | 教育支援部・主任研究員 | | カリキュラム、担当校情報収集 |
| | 大城 政之 | 発達障害教育情報センター・主任研究員 | | カリキュラム、担当校情報収集 |
| | 猪子秀太郎 | 教育支援部・主任研究員 | | カリキュラム、担当校情報収集 |
| | 渥美 義賢 | 発達障害教育情報センター長 | | カリキュラム |
| | 柳澤亜希子 | 企画部・研究員 | | 教科教育等の情報提供 |

| | | | |
|-------|-------|-------------------------------|----------------------------|
| 研究協力者 | 氏名 | 所属機関名・職名 | 役割 |
| | 石塚 謙二 | 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課・特別支援教育調査官 | 行政からの知見情報提供等 |
| | 青山 新吾 | 岡山県教育庁・指導主事 | 文科省委託研究(自閉症研究)からの知見情報提供等 |
| | 渡部 匡隆 | 横浜国立大学・教授 | 学識経験者からの知見等提供 |
| | 河本 眞一 | 中野区立桃園小学校・校長 | 全国特別支援学級設置学校長協会の会長として知見等提供 |

| | | |
|--------|----------------|----------------|
| 研究協力機関 | 機関名 | 役割 |
| | 茨城県取手市立取手小学校 | 自閉症教育にかかると実践研究 |
| | 茨城県取手市立戸頭西小学校 | 自閉症教育にかかると実践研究 |
| | 神奈川県横須賀市立船越小学校 | 自閉症教育にかかると実践研究 |
| | 神奈川県伊勢原市立中沢中学校 | 自閉症教育にかかると実践研究 |
| | 神奈川県横浜市立大曾根小学校 | 自閉症教育にかかると実践研究 |
| | 千葉県(調整中) | 自閉症教育にかかると実践研究 |
| | 徳島県徳島市立南部中学校 | 自閉症教育にかかると実践研究 |
| | 宮城県仙台市立宮城野中学校 | 自閉症教育にかかると実践研究 |

<趣旨及び目的>

自閉症のある児童生徒に対しては、特別支援学校、特別支援学級及び通級による指導において指導がなされており、さらには通常の学級においては特性に応じた配慮がなされつつある。それらの指導の場は、併せ有する知的障害の状態に応じて設定されている。

しかし、それらの指導の場における教育条件が大きく異なることから、それぞれの指導の場における指導内容や指導方法、環境設定の在り方については、その共通性と特異性を分析することが重要であり、かつ、そのことを踏まえながら、自閉症のある児童生徒全体を視野に入れて検討し、総合的な提言が必要と考える。

近年の自閉症教育に係る動向としては、国連が4月2日を世界自閉症啓発デーと定め、啓発活動が活発化しており、学校現場においても自閉症への適切な理解が求められている。また、文部科学省における平成21年2月3日付けの通知で、情緒障害特別支援学級を自閉症・情緒障害特別支援学級と名称変更し、小・中学校における自閉症教育の充実が求められていると考えられる。さらに、平成21年度から開始された文部科学省における「自閉症に対応した教育課程の在り方に関する調査研究事業」では、本研究と同様の特別支援学級も対象にして、自閉症の特性に応じた教育課程の編成の在り方について9道県20校が委託研究を開始している。

本研究に関しては、平成20年度～21年度に実施した重点推進研究「自閉症スペクトラムの児童生徒に対する効果的な指導内容・指導方法に関する実際的な研究～小・中学校における特別支援学級を中心に～」が基盤となっている。当該研究では、知的障害特別支援学級における自閉症教育の実態調査を行い、さらに、研究協力校の特別支援学級において、教育課程編成の手順等に関する聞き取り調査を実施した。同時に、自閉症のある児童生徒の自立活動の指導状況の聞き取り調査を行いながら、各学級での自立活動等の実践研究を協同で実施してきた。

当該研究では、自閉症の特性を踏まえた特別支援学級での教育課程の編成案（仮説）についてまとめつつ、主に自立活動の指導内容に関して検討してきた。その結果から読み取れることは、自閉症に対する指導においては、それ以外の障害とは、具体的な指導内容やその指導の背景要因には異なる部分が多く見られたということである。しかし、自閉症のある児童生徒の実態は多岐にわたり、さらに他の障害のある児童生徒が混在する特別支援学級では、自閉症の特性にフィットした指導内容の設定や、特化した教育課程の編成が必要であっても実現は難しい状況でもあった。

今後は、それらの課題解決のために、特別支援学級における自閉症の特性に応じたカリキュラム、及び必要に応じて特化したカリキュラムの設定に関する研究が必要である。そこで、新規課題においては、自閉症の位置付けがより明確になった自閉症・情緒障害特別支援学級において、自閉症の特性に明確に応じることを念頭に置き、知的発達程度が標準から軽度の児童生徒を対象とし、主として各教科の指導における具体的な指導内容を分析・整理することを目的としたい。その結果をカリキュラム全体の評価に繋げ、より一層自閉症の特性に応じた指導に資する成果を見いだしたい。

主として、各教科の指導における具体的な指導内容を分析・整理することを重視する理由は、自閉症のある児童生徒に対する自立活動の指導に関する研究は多く見られるようになってきているが、各教科の指導における特性に応じた指導内容等に関する研究は少ないこと、交流及び共同学習の実施に際して、自閉症のある児童生徒の特性に適した教科に関する研究や知見が見られないことなども挙げられる。

したがって、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の教育課程の編成を再検討するため、事例を通じた各教科の指導における、特性に応じた具体的な指導内容の検証を踏まえつつ、カリキュラムの評価項目を別途作成し、カリキュラムアセスメントにつないでいくようにする。その成果を、自閉症のある児童生徒の特性に応じた教育課程編成の在り方として整理していきたい。研究成果については、事例を重視し、望ましい教育課程編成への取組のステップができるだけ容易に理解できるよう、考えていきたい。

<期待される成果と普及方法>

(平成 22 年度) (平成 23 年度)

2 年間の研究において期待される研究成果は以下の通り。

- ①カリキュラムアセスメントによる自閉症のある児童生徒の特性に応じた教育課程の指針の提言
- ②自閉症のある児童生徒に対する教科指導における指導内容の設定に関する指針の提言
- ③交流及び共同学習における教科選択に関する指針の提言

研究結果や研究成果の普及方法は、日本特殊教育学会等における発表や自主シンポジウム等を実施していく予定である。特殊教育学会では、①カリキュラムアセスメントに関する提案を、②自主シンポジウムにおいては、自閉症・情緒障害特別支援学級における自閉症のある児童生徒の教科教育の提案を予定している。また、2 年間の研究成果を研究成果報告書にまとめるとともに、自閉症・情緒障害教育専門研修等の研修講義で活用するとともに、web 公開、世界自閉症啓発デー等でも成果普及について情報提供を考えている。

(平成 24 年度以降)

ガイドブックの作成、カリキュラムアセスメントのシートの活用例等

<研究計画・方法>

- 1) 文部科学省特別支援教育調査官(自閉症担当)、大学研究者や教育委員会指導主事、研究協力機関(自閉症・情緒障害特別支援学級設置小中学校)、並びに研究分担者 8 名により推進する。
- 2) 特別支援学級の教育課程に関する資料及び先行研究、並びに自閉症のある児童生徒を対象とした教科教育に関する情報収集を行い、知見を整理する。
- 3) 研究協力機関校の自閉症・情緒障害特別支援学級の実態及び教育課程等の情報収集を実施し、カリキュラムアセスメント項目作成の検討材料とする。
- 4) 2) 及び 3) 等からカリキュラムアセスメント項目を作成し、協力校に使用を依頼し修正等を行っていく。
- 5) 年間を通して、研究協力校の自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の教科教育について、研究チームスタッフと協力校担当教員と共同で実践研究を実施していく。
- 6) 研究協力者からは、小・中学校における自閉症教育の在り方や、知的障害及び情緒障害特別支援学級における教育課程編成の在り方、具体的に実践を推進する上での知見の提供を依頼する。

平成 22 年度研究協議会等

〈予定回数 2 回〉 〈予定時期 6 月・ 2 月〉 〈場所 キャンパスイノベーションセンター〉

研究
パート
ナー
の
条
件

- ①自閉症・情緒障害特別支援学級において、知的発達の遅れがない自閉症、あるいは知的発達が境界線か軽度の児童生徒に対して、自閉症の特性を踏まえた教科教育等を実施している事例の有る学校
- ②自閉症・情緒障害特別支援学級において、上記に該当する自閉症の児童生徒を踏まえた特別の教育課程の編成を実施している学校